秀岳館8強!!10年ぶり聖地へエースが引っ張る

元山16K

4人全員140キロ超右腕の「投手王国」も背番「1」譲らん

<秀岳館・宇土>16奪三振で完封し2年ぶりの8強へ導いた秀岳館のエース元山

甲子園への道 2011 19日

第93回全国高校野球選手権熊本大会は19日、4回戦の3試合が行われ、10年ぶりの夏代表を目指す秀岳館はエース右腕・元山裕司（3年）が16奪三振で宇土を完封し、8強進出。文徳、鎮西も準々決勝にコマを進めた。また福岡大会は4回戦以降の組み合わせが決まった。

◆熊本

▽4回戦（最終日）

	宇土	秀岳館
	000	000
	000	000
	000	00X
	0	3

（宇）藤田、井手―岩越
（秀）元山―中山

最速143キロ!!4安打完封

今夏熊本きっての「投手王国」のエースが、奪三振ショーだ。6回を除く毎回の16奪三振。「自己最多？三振にこだわったことがないんで数は分かりません」。元山は笑顔で照れた。

立ち上がりは慎重だった。130キロ台後半の速球で追い込み、変化球で空を切らせる。4回に3連打を浴びたが、2死満塁から連続空振り三振で切り抜ける。そこからは尻上がりに球威を増す速球でグイグイ押し、7回は3者連続三振、8回先頭も速球で空振り三振に斬る。球速は最終回になって140キロを連発。自己最速にあと1キロに迫る143キロまで速し、宇土打線を4安打完封した。

昨夏は2年生でエースナンバーを背負った。だが新チームでもらった背番号は「7」。左翼手として出た秋の県大会準々決勝で左鎖骨を骨折した。全治2カ月が明けると今度は右肩故障。治療で訪れた福井の病院で体の硬さを指摘され、股関節の柔軟と体幹強化に取り組んだ。実戦復帰は今年5月。半年間もの地道なトレーニングで下半身に粘りが出て課題の制球力が増し、最後の夏に「1」を奪い返した。

今夏はベンチ入りする投手陣4人全員が140キロ超の右腕。背番号1といえども絶対的存在ではないが「きょうは展開的に完投させたが、本来は継投を考えていた。投手4人はタイプで使い分ける」と話した久木田拓吉監督は試合直後、元山に準々決勝の先発を命じた。「ここまで来たらどこも強い」と警戒した元山には目標がある。開幕直前の練習試合で5回6失点KOされた九州国際大付へのリベンジ。「甲子園で九国大付とやりたい。そのために次につながる投球をしたい」。01年以来2度目の甲子園は、自らの右腕でつかみ取る。

（金子　麻理）